

春 (唱歌)

東 くめ子

わが行く野山は

みどりもえ

わたる小川の

こぼりとく、

わが袖かへせば

花は咲き、

わが手をあぐれば

鳥うたふ、

そよ吹く風は

わが氣息よ、

たなびく霞は

わがきぬよ、』

うべこそまつらめ

世の人々の、

春よくと

いひはやしつゝ、』

わが世はくれぬ

夏ちかし、

いざや行かんと

誘へば、

春のしらべを

歌ひをへ、

鳥も古巢に

かへるなり、

いそぐ行手の

花はみな、

あはたゞしげに

散りそめぬ、』

をしむも理

世の人々の、

春よくと

いひはやしつゝ、』

春の夜

つねを

あかき梅咲く

山かげの

軒端しづかに

はるの夜の

いろりの中に

輪をかきて

目もと優さしき

ぢいばいと』

今年もらひし

花よめの

こゑも交じりて

何にとなく

心もあかぬ

物がたり

よそに見るめも

あたゝかし』